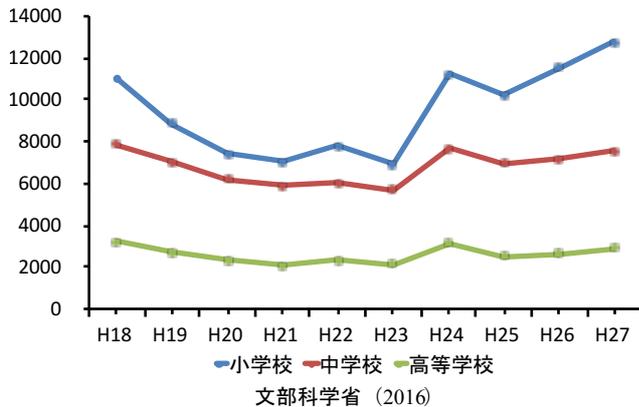


誰がいじめを受けやすいのか 社会経済的地位からのアプローチ

東北大学大学院文学研究科
人間科学専攻
行動科学専攻分野 M1
眞田 英毅
teeeruki@outlook.jp

研究の背景と目的

- いじめ認知件数の推移はここ数年一定 or 増加傾向に



- 先行研究
 - いじめ研究の多くは主にその要因を**個人特性**と**集団特性**に求めるものに分かれる(森田ら1986; 久保田 2013)
 - **個人特性**
いじめの原因は加害者・被害者の性格ではない(滝 1992)
いじめの多くは嫉妬や不満などから生じる
(阪井 1989; 正高 2007; 土居・渡部 2008)
加害者の多くは過去にいじめられた経験がある(伊藤 2017)
 - **集団特性**
学級内での規範の高さや結束でいじめ発生は抑制される
(大西 2007; 水田・岡田・尾島 2016)
- **家庭環境などが原因となっているのではないだろうか?**
- RQ
いじめられやすい子どもはどういう社会経済的地位や環境におかれているのか?

データと手法

- データ
 - PISAデータ(2015)
OECDが3年ごとに行う学習到達度調査(第6サイクル)
科学的リテラシー・読解力などの3分野について調査
 - 日本のデータ
2015年度に15歳であった日本の男女に調査

- 分析方法
 - **マルチレベル分析**
→ 入れ子構造になっているデータの分析手法
 - 永吉(2016)を参考にモデルや変数を作成
社会経済的地位 (SES) は中心化したものを使用
 - **ランダム効果は個人のSESと切片に**

変数

- 従属変数
 - **いじめられやすさの因子得点**
「仲間外れにされた」「からかわれた」「脅された」
「ものを取られたり壊されたりした」
「叩かれたり押されたりした」「意地の悪い噂を流された」
(全くない、年に数回、月に数回、週に数回の4件法)
の6項目を因子分析で因子得点を算出
* 日本でいじめられた、の調査はなし

- 独立変数(レベル1)
 - 性別(男性ダミー)
 - 個人SES(社会経済的地位)(中心化)
 - 親は学校での状況をよく気にかけてたり相談にのってくれるか
 - 朝食を食べて来たか(朝食ダミー)
- 独立変数(レベル2)
 - 集団SES(学校ごとのSES)(中心化)
 - 個人SESと集団SESの交互作用

結果(男性)

	モデル 1		モデル 2	
	B	S.E.	B	S.E.
固定効果				
切片	-0.23 ***	0.02	-0.47 **	0.16
個人 SES			-0.02 *	0.01
親相談			0.07 ***	0.01
朝食ダミー			0.12 †	0.07
集団レベル(n=189)				
学校 SES			-0.01 **	0.00
個人 SES* 学校 SES			0.00 †	0.00
	V.C.		V.C.	
ランダム効果				
個人レベル	0.89		0.88	
個人 SES			0.00	
集団レベル	0.15		0.14	
相関			0.00	
個人 SES 集団レベル切片				
deviance	7619.25		7574.13	
AIC	7625.27		7594.13	
BIC	7643.19		7653.87	

N = 2905, ***p < 0.001, ** p < 0.01, * p < 0.05, † p < 0.1 最尤推定法

結果(女性)

	モデル 1		モデル 2	
	B	S.E.	B	S.E.
固定効果				
切片	-0.25 ***	0.02	-0.28	0.18
個人 SES			0.00	0.01
親相談			0.09 ***	0.01
朝食ダミー			0.11	0.07
集団レベル(n=188)				
学校 SES			-0.01 ***	0.00
個人 SES* 学校 SES			0.00	0.00
	V.C.		V.C.	
ランダム効果				
個人レベル	0.96		0.95	
個人 SES			0.00	
集団レベル	0.21		0.19	
相関			0.00	
個人 SES 集団レベル切片				
deviance	7723.70		7669.24	
AIC	7729.70		7689.24	
BIC	7747.48		7748.49	

N = 2766, ***p < 0.001, 最尤推定法

考察と課題

- 結果のまとめと考察
 - 学校の平均SESが低い学校ほどいじめが起りやすい
 - 男性では交互作用が有意であり、平均的にSESが低い学校では個人のSESが低い子どもがいじめられやすい
 - 一方で、**男性で平均的にSESが高い学校では、個人のSESが相対的に低くともいじめられやすさは変わらない**
 - 親が子どもの学校生活を気にかけているほどいじめられやすい
 - 朝食を食べている子どもほどいじめられやすい(男性のみ)

- 今後の課題
 - 因子得点の分布が右に偏っている
→ MCMC推定
 - **他の家庭環境**などによっても変わる可能性
 - このモデルで**時系列比較・国際比較**し、いじめの趨勢を分析